

令和5年度 2学期終業式58 講話

令和5年12月21日【チョコ3】
おはようございます。校長先生の言葉は皆さん的心に届いていますか？

本日は、まず先日行われた東淀川区人権啓発推進事業「人権作文・人権標語」募集において、見事入賞された児童の表彰をおこないました。おめでとうございます。今も区役所の3階に掲示されておりますので、近くに行かれた際にはお立ち寄りください。

そして、チョコレートの話の続きを以下のように行いました。

先週のお題「みなさんの好きなチョコレート菓子は？」のアンケートに、多くの子どもたちが回答シールを貼りました。ありがとうございます。結果、シミチョココーンとカントリーマアムが大隅西小の1位となりました。日本全体で統計を取りますと、キットカットが1位だそうですよ。

カカオ豆の生産はエクアドルから始まり、今はガーナ国が生産大国として有名です。またカカオ豆は今から4000年前ごろから植えられていて、そのころチョコレートは、今とは違い神様のお供え、あるいはお薬として飲まれていました。解熱剤、腹痛、のどが痛いとき、そして毒消しの薬としても有名でしたが、不老不死の薬としても信じられていました。

昔、チョコレートの値段はとても高かったそうです。なぜなら、とても人

気はあるのですが、カカオ豆があまりとれなかったからです。だからすごく貴重なもので、お金の代わりにもなっていたぐらいです。

例えば、ニワトリ1羽はカカオ豆300粒、卵は30粒、大きなトマトは1粒で交換できあたそうです。

現在1袋120円のチョコレート菓子も、昔ならば最低でも1000円以上はしていたと考えられています。

だいたい今の80倍以上の値打ちで、20円のチョコは1600円以上していたということです。だから昔は王様ぐらいしかチョコレートを食べることができませんでした。

昔は、なぜこんなに高かったのでしょうか。それは、先述したように、人気はあるものの、あまりとれなかったからなのです。今ではきちんと農園にカカオの木が植えられて、栽培されているので、たくさんとれるようになり、値段だいぶが下がったのです。

実はカカオ豆をもっと安くつくる方法があります。少しまわりの人と聞き合ってみてください。

少し難しかったですか。それは、つくる農家の人の給料を下げることなのです。そんなことをしたら、農家の人は怒るのではと思う人もいるかもしれませんね。普通はそうです。

でも、給料を安くしても、文句を言わない人がいるのです。それはどんな人でしょう。周りの人と聞き合ってみてください。

文句を言わないというか、言えない人。それは「こども」です。

実は、ガーナなどのカカオ農園では、今でも多くの子どもが、朝から晩まで働いています。これを児童労働と言います。この子どもたちは、学校はどうなると思いますか？少し周りの人と聞き合ってみてください。

実は、この児童労働に関する動画を手に入れることができました。少し見てみましょう。

(2分後) はい、今日はここまで。
(子どもたちは「えー！」) また続きは、3学期の始業式で見たいと思います。いろいろ想像して冬休みを過ごしてください。

それでは、今週のお題です。昔チョコレートは「薬」として飲まれていたとお話ししましたが、みなさんは「こんな薬があったらいいなあ」というもののはありますか？いい薬を思いついたら、校長室前のボードに書いてくださいね。

今日も最後まで聞いていただきありがとうございました。皆様、良いお年をお迎えくださいね。